



幸恵さん(63) クリエーター

福本 整さん(64) 建築家



季節の移ろいを楽しむ自然豊かな田舎生活を求めて、広島市近郊から九州まで古民家を探し続けていた福本夫妻。たまたま見つけたのが安芸高田市の空き家バンクの物件でした。下見に訪れたのは2008年の初冬、曇天模様の日。十数年間放置されていた家は屋根も破れ、中には不用品が置き去りにされ廃屋のよう、庭も荒れ果てていて、当初幸恵さんは立ち入るのも憚られるような状態でした。しかしそこは建築家の整さん。構造部分では使えると判断し、地形や周辺の状況、眺望の良さからこの家を手に入れることに。それから4年、コツコツと手作りで改修し、念願の「緑に包まれた

簡素な田舎生活」が始まりました。出来上がった空間は暮らしを楽しむ二人のセンスがにじみ出ている理想の田舎生活そのもの。時々友人を招き音楽会や映画会を開いていたお二人。画家、音楽家などクリエイティブな人々の集う隠れ家になればと、土日だけささやかにカフェもオープンしています。建築家の経験を活かして古民家改修を検討される方の相談にも乗ってあげられること。ぜひ訪ねてみてはいかがでしょうか。

●風のカフェ
安芸高田市吉田町多治比720
☎090-1355-3195
営業11時～17時(土日のみ)

安芸高田市「空き家情報バンク」

安芸高田市では、田舎暮らしを希望される方から問い合わせの多い「空き家」の情報提供を行っています。古民家や畑付きなどお望みの物件が見つかるかもしれません。空き家情報バンクに登録されますと、情報をアップデートしたタイミングでお知らせいたします。



<http://www.akitakata.jp/ja/shisei/section/jutaku/main/>

TURN CAREERS | 14 YEARS

FROM KYOTO



アーティストは田舎でこそ
洗練される気がします

アニバーサリーデザイナー

佐久間 環

さくま・たまき

広島県安芸高田市出身。大阪FD専門学校を卒業後、大手ドレスメーカーにて、チーフデザイナーを務める。国内外を行き来し、レンタル、オーダー、TV関係、芸能・文化人の挙式ドレスのデザイン・製作を担当。2001年広島に拠点を移し「Tamaki Alta Moda Sposa」を設立。

安芸高田市に戻ったきっかけ
「会社勤めのころは、よく出張先のホテルのお風呂で泣いていた」。前職について尋ねると、笑ってそう言った。「考える暇もないくらい激務に追われて、私はこのままでいいのかわからない、不安でたまらなかった」。話の内容とは裏腹に口調は明るい。毎月5本新作ドレスをデザインし、東京・上海を飛び回って指示を出すルーティン。大半をホテルで過ごす中「指示を出すよりもやっぱり、ものづくりをやりたい」という想いが募り、2001年に退職。

の良さと作業スペースの広さを考えて定住を決意。
「元々はドレスデザイナーだが、今ではアニバーサリーペーパーや着物のリメイク、近所のおばあちゃんの服の裾上げから、『安芸ひろしま武將隊』の衣装まで、『縫い物なんでも引き受けます』と言った様相。「結局前と同じで、忙しい日々になっちゃったけど、やりたい仕事をやっているから、もうお風呂で泣くこともありませんよ」。

安芸高田市でよかったこと

「雑音が無いから作業に集中できるし、夜中でも近所を気にせずミシンを使える」。マンションでは音が響いて気が気ではない。帰ってきた当初は訝しげにしてた近所さんもメディアで取り上げられたのを見て仕事を頼みに来たり、紹介してくれるようになった。

「アーティストは田舎でこそ



洗練されるんじゃないでしょうか。安芸高田市は広島市内へも空港へも1時間で行けるし、お客さんとのやり取りはインターネットで十分できる。材料も私が使いたいものはメーカーから直接取り寄せるし、何も不便を感じません」。

移住を考えている人へ

「簡単に『ここはいいところですよ』とは言えません。1ターンの人は特に、何がやりたいのか、目的と覚悟を持ってきてほしい。また、地域とのコミュニケーションは警戒されるかもしれませんが、一度つながればその絆は強い。何かあったときに助けてくれますし、仕事を広げてくれます。クチコミに勝るものはありません。ものづくりでできる人が来てくれると、私も嬉しいです。畑違いの人だからこそ得られるヒントや、共感があります。ぜひ安芸高田市に来てください」。